

# 株主・投資家の皆様へ

平成22年7月期(第49期) 報告書

2009.8.1 >>> 2010.7.31

## Creativity & Challenge

# 「健全かつ強い体質で永続的に発展する会社」を目指して邁進してまいります。

株主・投資家の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は当社に温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに、当社第49期の報告書をお届けするにあたり、

ご挨拶をかね、営業の概況等についてご報告申し上げます。

代表取締役社長 梅森 輝信

## ● 当期業績の総括

当期におけるわが国経済は、新興国の景気拡大による輸出の増加や政府の経済対策効果等を背景に、景気は持ち直しの動きが見られるものの、民間設備投資や個人消費の低迷、雇用情勢の悪化、デフレの影響など、依然として厳しい状況が続きました。

包装機械業界におきましても、消費者の節約志向並びに低価格指向が強まる中で、顧客企業の設備投資の抑制傾向が続くとともに、輸出も減少するなど、受注環境は厳しい状況で推移しました。

このような状況の中、当社は新規顧客の開拓、新たなマーケットの開拓、新機種の受注活動の強化に努めるとともに、収益性の向上に取り組んでまいりました。

## ● 業績全般の概況

売上高の状況につきましては、前期からの受注残もあり、販売台数と大型案件の実績額が増加したことから、第3四半期累

計期間までは好調に推移しました。しかし、受注の低迷と一部案件で次期への繰越が発生したことに伴い、第4四半期会計期間の売上高が前年同四半期を大きく下回ったため、通期の売上高は前期とほぼ同額となりました。

受注高につきましては、設備投資需要が低調に推移し、大手企業向けの大型案件及び高価格機種の実績件数が減少したことから、前期を大きく下回る状況となりました。

この結果、当期の売上高は、海外向けの売上が減少したものの、国内向け包装システムの売上の増加でカバーできたことから、3,682百万円(前期比0.2%増)となりました。また、損益面につきましては、高粗利益機種の販売台数増加と経費削減効果等により、売上総利益率が改善(同1.7ポイント増)したことから、売上総利益は前期より増加しました。

一方、販売費及び一般管理費は前期より増加したものの、売上総利益の増加額以下に抑制できたことから、営業利益は171百万円(同26.6%増)、経常利益は177百万円(同22.4%増)、当期純利益は105百万円(同27.6%増)となりました。

## ● 次期の見通し

包装機械業界におきましては、顧客企業の設備投資の抑制傾向が続くとともに、円高で輸出も低調に推移することが予想され、受注環境は厳しい状況が続くものと予想されます。

このような状況下で当社は、引き続き新規顧客と新たなマーケットの開拓、新機種の拡販、アジア向けを中心とした海外販売の強化などに取り組み、業績向上を目指してまいります。

次期につきましては、大型案件の需要が低調なものの、一部高価格機種の需要回復が期待できることと、新規分野の案件も増加していることから、受注高の増加を目指します。

売上高の見通しは、期初の機械受注残高が前期に比べて358百万円減少しているものの、期中に売上可能な中小型案件の需要の回復が期待できる状況であることと、新機種の販売計画により、218百万円の増加を見込んでおります。

収益面は、売上高と高粗利益機種の販売台数の増加計画により、売上総利益は前期比71百万円の増加を見込んでいます。販売費及び一般管理費は、人件費及び研究開発費が増加することから、前期比27百万円の増加を見込んでいます。これらの結果、営業利益は43百万円、経常利益は42百万円、税引前当期純利益は42百万円、当期純利益は24百万円の増加をそれぞれ見込んでいます。

以上により、次期の業績予想といたしましては、売上高3,900百万円(前期比5.9%増)、営業利益215百万円(同25.3%増)、経常利益220百万円(同24.2%増)、当期純利益130百万円(同23.3%増)を予想しております。



当社は、生活に必要な食品や日用品の安全や衛生に深く関わる包装技術でみなさんの生活を見えない所で支えています。

## 特徴 1

### 袋に詰めることが難しい物が得意！

当社製品の最も得意とするのは、小麦粉、ふりかけ、かつお節、お米など、詰める時に舞ってしまったり、形が不揃いだったり、袋に詰めることが難しい物です。

当社は1961年にインスタントジュース、小麦粉、砂糖、塩など粉末状の製品を包装する機械から事業をスタートさせたのですが、特に業界に新風を巻き起こしたのがかつお節の使いきりサイズのミニパック包装です。抱える課題を解決し、包装



機械としてリリースした所、これが大ヒット商品となり、業界での評価が飛躍的に高まった、という歴史があります。

## 特徴 2

### チャック付きスタンドパウチ

スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどのお菓子の棚で、良く目にするグミキャンディーのパッケージにも当社の技術が活かされています。袋を立てたまま置いておける上に、封を切った後に内容物がこぼれ出ないように保存するためのチャックが付いています。



## 特徴 3

### 海外への事業展開

当社の技術は海外マーケットからも熱い注目を浴びています。海外の高級ペットフードメーカーからの依頼で、ヨーロッパや北米・南米に機械を輸出しており、今後は世界的な需要の拡大に向け、新たな成長を広げてまいります。



## より速く、より安全に、より美しく。

内容物や機能ごとに多彩な機種を揃え、オプションも充実。あらゆるニーズへの対応が可能です。

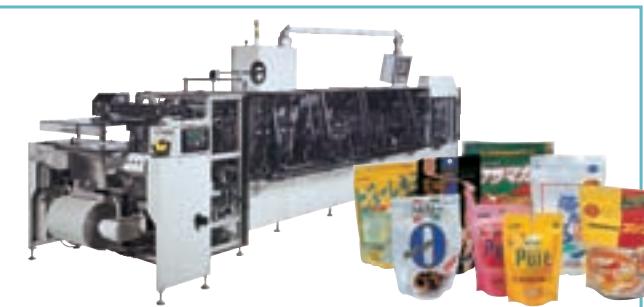
### ◎ 給袋自動包装機 (ガス充填自動包装機含む)

対象物、袋サイズ、袋形態の幅広いニーズに応え、粉末から固形物まであらゆる充填物に対応できます。また、不活性ガス封入により商品のシェルフライフを延長させることが可能です。



### ◎ 製袋自動包装機

給袋自動包装機と同様の充填物ですが、小袋の高速包装から大袋用包装までの対応が可能で、包材はコストの安い各種のフィルムを使用できます。また、包装システムライン化のための後工程機械との連動に適しています。



### ◎ 包装関連機器・包装システム

幅広い包装ラインの合理化・省力化に対応が可能であり、当社包装機をシステム化するための周辺機器及び顧客の生産に必要な他社包装関連機器を取扱っています。



TOPICS

東京・名古屋の展示会に出展しました。

2010中部パック

当社は、平成22年4月14日から17日まで、ポートメッセなごやで開催された「2010中部パック」に出展しました。2年に一度の隔年で開催している中部地区最大規模の展示会で、当社は毎回参加しております。

今回は、新開発の水洗い対応給袋自動包装機GP-WP10UST型をはじめ、パターンマッチング検査方式を採用した印字検査装置で今回新たにインクジェットプリンターにも対応した最新鋭のGP-NC100A型などの組み合わせによる計5機種を出展。このうち、水洗い対応給袋自動包装機では、生きた金魚を包装する実演を実施しました。最終日には、お子様を中心に持ち帰り用に配布したところ、多くの希望者が列を作り、待っている人が多いため、その間の数時間は実演を止められないほどの大盛況でした。

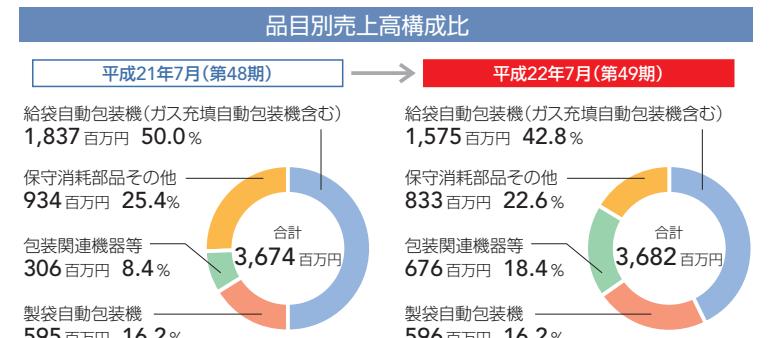
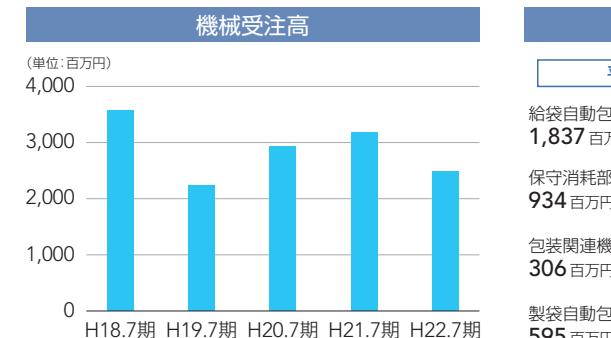
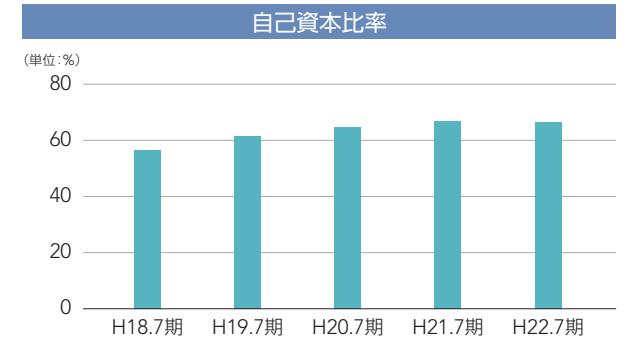
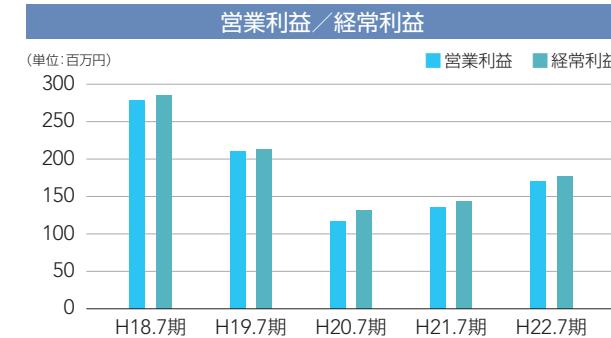
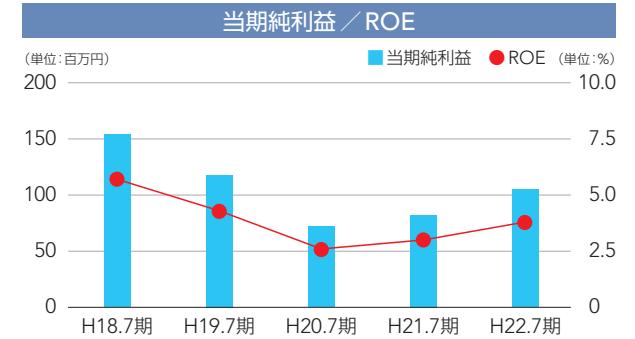
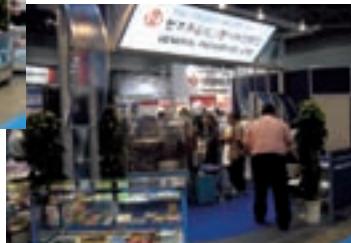


FOOMA JAPAN2010



平成22年6月8日から11日まで、東京ビックサイトで開催された「2010国際食品工業展(FOOMA JAPAN2010)」においても、「2010中部パック」で紹介した最新の水洗い対応給袋自動包装機GP-WP10UST型を出展しました。

同包装機での液充填包装や、印字検査装置GP-NC100A型のそれぞれの実演を行い、ブースに立ち寄られた皆様へ当社の技術力をアピールしました。来場者の特徴としては、これまで以上にアジアを中心に外国からの来場者が多く増えており、海外での需要の高まりを肌で感じることができました。



# 財務諸表

## ● 貸借対照表

科目	当期 (第49期) 2010.7.31 現在	前期 (第48期) 2009.7.31 現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>3,207,995</b>	<b>3,075,097</b>
現金及び預金	1,753,987	1,200,201
受取手形及び売掛金	661,771	969,302
たな卸資産	657,060	736,357
未収入金	79,516	110,518
その他	55,799	58,913
貸倒引当金	△ 139	△ 196
<b>固定資産</b>	<b>988,204</b>	<b>1,109,997</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>899,958</b>	<b>926,403</b>
建物及び構築物(純額)	592,968	626,788
土地	280,603	280,603
その他(純額)	26,385	19,011
<b>無形固定資産</b>	<b>10,153</b>	<b>7,361</b>
投資その他の資産	78,093	176,233
<b>資産合計</b>	<b>4,196,200</b>	<b>4,185,094</b>

### POINT 1

当期末の固定資産は、投資その他の資産に含めていた長期預金の流動資産への振替を実施したこと等により、前期末比121百万円の減少となりました。

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当期 (第49期) 2010.7.31 現在	前期 (第48期) 2009.7.31 現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>1,335,447</b>	<b>1,313,406</b>
支払手形及び買掛金	878,434	921,192
未払法人税等	69,809	2,756
賞与引当金	31,264	29,865
製品保証引当金	8,245	11,130
その他	347,692	348,462
<b>固定負債</b>	<b>61,524</b>	<b>72,281</b>
退職給付引当金	31,034	26,819
役員退職慰労引当金	30,450	45,400
その他	39	61
<b>負債合計</b>	<b>1,396,971</b>	<b>1,385,687</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>2,792,153</b>	<b>2,791,105</b>
資本金	251,577	251,577
資本剰余金	282,269	282,269
利益剰余金	2,301,151	2,258,683
自己株式	△ 42,844	△ 1,423
評価・換算差額等	3,998	8,300
その他有価証券評価差額金	3,998	8,300
新株予約権	3,077	—
<b>純資産合計</b>	<b>2,799,228</b>	<b>2,799,406</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>4,196,200</b>	<b>4,185,094</b>

### POINT 2

純資産合計は、当期における利益計上等により、利益剰余金が42百万円増加したものの、自己株式の取得41百万円を実施したこと等により、前期末とほぼ同額となりました。

## ● 損益計算書

科目	当期 (第49期) 2009.8.1 ~ 2010.7.31	前期 (第48期) 2008.8.1 ~ 2009.7.31
売上高	3,682,568	3,674,616
売上原価	2,665,619	2,721,380
売上総利益	1,016,948	953,235
販売費及び一般管理費	845,030	817,458
営業利益	171,917	135,777
営業外収益	10,327	12,588
営業外費用	5,084	3,676
経常利益	177,159	144,689
特別利益	56	1,963
特別損失	—	10,502
税引前当期純利益	177,216	136,149
法人税、住民税及び事業税	78,240	14,639
法人税等調整額	△ 6,416	38,884
法人税等合計	71,823	53,523
当期純利益	105,392	82,626

## ● 株主資本等変動計算書

	(2009.8.1 ~ 2010.7.31)					株主資本		評価・換算差額等 その他有価証券評価差額金	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計					
前期末残高	251,577	282,269	2,258,683	△ 1,423	2,791,105	8,300	—	—	2,799,406	
当期中の変動額										
剰余金の配当			△ 62,924		△ 62,924				△ 62,924	
当期純利益			105,392		105,392				105,392	
自己株式の取得				△ 41,420	△ 41,420				△ 41,420	
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)						△ 4,302	3,077		△ 1,225	
当期中の変動額合計	—	—	42,468	△ 41,420	1,047	△ 4,302	3,077		△ 178	
当期末残高	251,577	282,269	2,301,151	△ 42,844	2,792,153	3,998	3,077		2,799,228	

## ● キャッシュ・フロー計算書

科目	当期 (第49期) 2009.8.1 ~ 2010.7.31	前期 (第48期) 2008.8.1 ~ 2009.7.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	582,917	322,800
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 85,809	3,333
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 104,392	△ 62,915
現金及び現金同等物の増加額	392,716	263,217
現金及び現金同等物の期首残高	1,161,194	897,976
現金及び現金同等物の期末残高	1,553,910	1,161,194

### POINT 3

損益は、販売費及び一般管理費が前期比3.4%増加したものの、売上総利益率の改善により売上総利益が前期比6.7%増加したことから、経常利益が前期比32百万円の増加となりました。

# 会社の概要

## ●会社概要 (平成22年7月31日現在)

商号	ゼネラルパッカー株式会社
英文社名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設立	昭和41年2月 (創業 昭和36年12月)
資本金	2億5,157万7千円
事業内容	各種自動包装机・荷造用機械及び周辺装置の製造・販売・修理、それに附帯する一切の業務
従業員数	114名
本社・工場	〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地 Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222



本社

東京営業部 〒101-0045  
東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8  
神田木原ビル4F  
Tel. (03) 3256-3891 (代)  
Fax. (03) 3256-3893

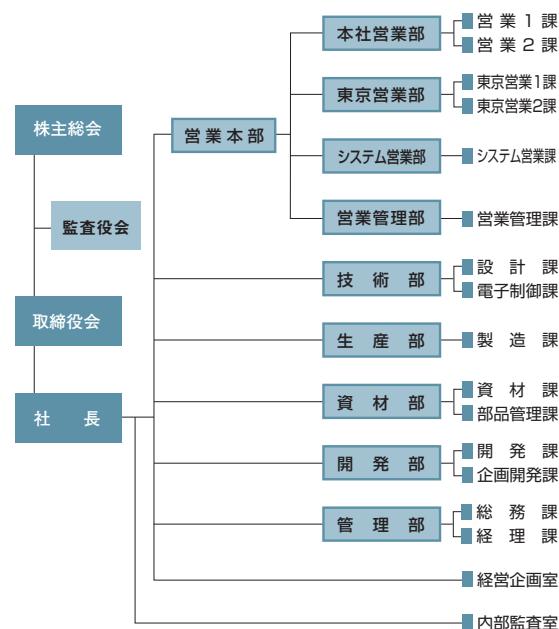


東京営業部

## ●取締役及び監査役 (平成22年10月22日現在)

代表取締役社長	梅 森 輝 信	
取締役	工 藤 誠 一	生産部長 兼資材部担当
取締役	鈴 木 完 繁	営業本部長 兼東京営業部長
取締役	小 関 幸 太 郎	管理部長
取締役	池 田 勇 次	技術部 兼開発部担当
常勤監査役	余 川 善 明	
監査役	村 橋 泰 志	
監査役	浅 井 一 郎	

## ●組織図 (平成22年7月31日現在)



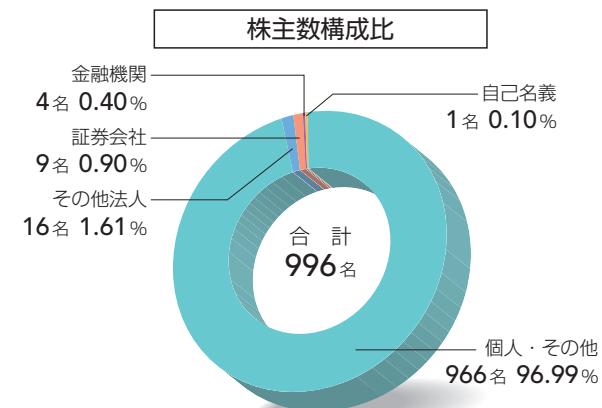
# 株式情報

## ●株式の状況 (平成22年7月31日現在)

発行可能株式総数	28,000,000 株	
発行済株式総数	8,994,000 株	
株主数	996 名	
大株主		
株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
ゼネラルパッカー従業員持株会	1,250,000	14.27
高野 まさ子	650,000	7.42
原 淳	601,000	6.86
株式会社りそな銀行	392,000	4.47
高野 季久美	364,000	4.15
田中 かな	364,000	4.15
安江 禎治	279,800	3.18
ゼネラルパッカー取引先持株会	262,000	2.99
原 利子	224,000	2.55
島末 孝法	196,000	2.23

自己株式229,776株を保有していますが、上記大株主から除いています。

## ●所有者別分布状況

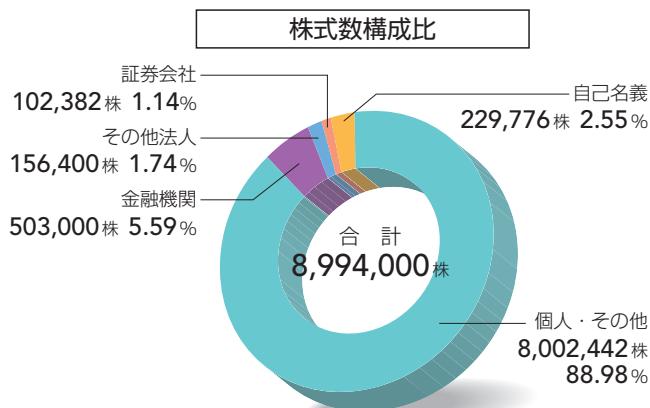


## ●株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日 期末配当金 7月31日 中間配当金 1月31日 その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目7番20号 日本証券代行株式会社 名古屋支店 Tel. (052)261-1781(代)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
公告掲載URL	<a href="http://www.general-packer.co.jp">http://www.general-packer.co.jp</a>

### 各種手続きのお申出先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- ・住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構(ほふり)をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。
- 証券保管振替機構(ほふり)をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。



# ホームページをご活用ください。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。  
今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

## IR情報を更新しました。

よくわかる  
ゼネラルパッカー物語



携帯サイト



ニュースメール



チャレンジング  
カンパニー



<http://www.general-packer.co.jp/>



包装システムのトータルプランナー

**ゼネラルパッカー株式会社**

● 本社・工場

〒481-8601 愛知県北名古屋市府寺神明65番地  
Tel. (0568)23-3111 (代) Fax. (0568)22-3222

● 東京営業部

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F  
Tel. (03)3256-3891 (代) Fax. (03)3256-3893

